

## 第 26 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：平成 30 年 10 月 10 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 13 分

場所：中井町役場 3 階 3 A 会議室

### 【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 町内完結型運行への切り替えによる利用状況について（資料 1）
  - (2) 乗降ポイントの追加について **承認事項**（資料 2）
  - (3) ポケットバス停予約システムへの試験移行について（資料 3）
- 4 その他
- 5 閉会

### 【協議事項の議事】

- 3 協議事項
  - (1) 町内完結型運行への切り替えによる利用状況について  
（事務局より（資料 1）町内完結型運行への切り替えによる利用状況について説明）

会 長：質問、発言いかがか。

委 員：時間帯別利用状況の比較についてで、**資料 1**3 ページ図 5：8 月において、18 時台の通勤で利用する方が増えたということで利用が伸びているが、どこで乗り継ぎをしているのか。

事 務 局：比奈窪で路線バスに乗り継ぎをし、通勤されている方と思われる。

委 員：町外への直接の運行が無くなったので、路線バス等への乗り継ぎが重要なポイントになると思う。自分は比奈窪をよく利用するが、町外へ出る人をもっと増やすということを考えた場合には、乗り継ぎ場所の案内をした方がよいと思う。また、乗り継ぎ場所におけるタイミング、時間帯、利便性を高めていく必要があるのではないかと。

事 務 局：他にも路線バスへの乗り継ぎ利用では、東名秦野バス停を利用されている方もいる。

委 員：**資料 1**8 ページ図 7：予約方法の状況で、6 割の方が Web 予約とのことだが、Web 予約の方の年代の比率は把握しているのか。

事 務 局：年代の把握はしていない。

委 員：利用者の状況を見ると 60 代以上の方が約 5 割を占めていて、Web での予約が 6 割を占めていることを考えると 60 代以上の方も Web 予約を使っていることも考えられる。

事 務 局：Web 予約の状況については情報を分析して、今後、お示しできるようにしたい。

会 長：恐らく、小・中学生が使用しているのか、或いは、両親が使用しているのかは不明だ

が、少なからずその辺りはWebを利用して予約していると推測される。60代以上の方で、どれくらい使っているのか把握しておくことは必要であると考え。

委員：運行開始から6年目ということで、当初の目的が、1日約40名の利用、それから今年度から町外の運行を廃止したということで、当初は、多岐に渡って利用する方が多かったが、今回の説明を聞いていると、町外利用が無くなり、通勤・通学など一部の利用者に限られてきたように見受けられる。今後の対応として、この事業をどのように展開していくのが良いのか？その辺が一番の課題であると考え。集落がこれだけ点在しているため、一台の車に複数の利用者は難しい。例えば、役場や井ノ口公民館近くに重要な施設がたくさんあり、そこへ集まりそこから帰るといったような、そういう場所ではないだけに一台の車で循環して人を拾って乗せるというのは限られると思う。そのようなことから、今後、特定の人しか利用しないということにならないかというところが懸念される所であり、課題であると考え。とりあえず5年が終わったことから、皆さんから良い考えがあれば運行方法を変えるなり、更なる次へ向けて抜本的な協議に入る段階に来ていると思うが、その辺考えがあるのか。

事務局：運行開始から6年目に入ったオンデマンドバスについては、当初から乗り合い運行を目的として進めて来ている事業である。導入に際しても集落が点在していて定時定路線の運行では交通弱者を救えないという状況の中、その対応策として適した運行方法ではないかということで開始したものである。しかし、利用を進めていく中で分析をしていくと、委員ご指摘のような利用状況も見えてきているのも事実である。時間帯により多く利用があるところもあれば、少ない時間帯があることも事実であることから、現在、2台体制で運用しているうちの一台はオンデマンドバスとして今までどおり利用し、もう一台を比較的利用の少ない時間帯を利用して商業施設等へ繋ぐ一部定時定路線としての試験導入等も検討していきたいと考えている。また、乗り合い利用が少なく単発運行が比較的多いという点については、現在の12人乗りの車両から、もう少し小型化した車両への変更についても検討していく必要もあるのではないかと考えている。現在の車両も5年は経過したが、車両自体の利用は、概ね10年ぐらいは問題ないとのことである。しかし、そこにいつの検討では遅いので、今年度、来年度、再来年度と向こう3年を掛けて利用状況を踏まえ、一部定時定路線等についても関係機関と調整を図りながら進めていきたいと考えている。

会長：現状では、このくらいの回答しかできないと思う。

一回の運行費用を一人あたりに換算すると1,000円～5,000円間の費用が掛かっている。特定の方が毎日利用するということはあまり望ましくない。他に交通手段がない人(限られているけど困っている人)を救いたいということを実施してきたが、本当に救いたい人というのは利用しているのかというのを検証していかなくてはならない。これで救えていなければ、他の方法を検討しなければならないし、救えているのであれば、より効率的な方法を検討していかなくてはならない。

委員：一律に町内限定とした理由は何か。例外的に日赤のみを残すという議論はなかったのか。老人会からの声では、日赤に通っている人は結構居る。路線バスを乗り継いでい

くという方法もあるが不便である。また、朝の通勤時間帯に県道を通る路線バス（急行線の一部）が日赤経由となっているが利用しにくい。

事務局：当初、オンデマンドバスを導入する際、日赤と商業施設を町外の乗降ポイントとして、設けた経緯としては、町内に比較的大きな商業施設がなかったことから、秦野市と二宮町の施設等に乗降ポイントを設けた。また、病院については、井ノ口地区に医療機関が無かったことから、日赤に乗降ポイントを設け運行を始めた。その間に当初無かった商業施設（あおば）が井ノ口に完成したほか、井ノ口地区にも総合病院ではないが、比較的大きなクリニックが開業した。

また、日赤乗降ポイントにおいては、当然病院を利用されている方も居たが、それ以外に秦野から中井へ通勤のために利用されている方が多かったということもあり、本来、真に移動を必要としている人（交通弱者）が予約を取れない状況となってしまうことから、町外の乗降ポイントを廃止することにより、その方たちを救ってほしいという目的で本年度から町内完結型運行に変更した経緯がある。なお、本件については交通会議に諮ってご意見をいただき決定したものである。

会長：時間を掛けて議論してきた経緯がある。

今後、どのような検証をして、いつぐらいに評価をするのか。スケジュールは？

事務局：町内完結型運行に変更し、半年が経過した。利用状況についても月によりばらつきがあるので、今年度いっぱい利用状況を検証していく必要がある。その間に今後の運行体制についても検討をしていきながら、今年度の検証を踏まえた中で次年度に向けて新たな運行体制等の方向性を示しお諮りをしたいと考えている。

会長：まだデータを見ていきたいということか。今後について、ここで審議という訳ではないが、それも含めてこの件もう少し時間を取りたいということではいいか。

委員：当初、オンデマンドバスが導入された際のコンセプトとして、町内完結型という色合いが濃かったような印象だった。町の公共交通の現状という視点で見ると、だんだんバス路線が寂しくなっていく感じがする。通勤・通学というのは、非常に大きなポイントであり、そういったものを排除しない方向で考えた方がよい。また、定住促進していくにしても例えば、緑豊かな住みやすい町と謳ったとしても、住んでみたら交通の便が非常に悪いということになってしまうと定住促進には繋がらない。もう一つは高齢者を対象とした、買い物や通院をフォローしていくような目的を持ったバスも必要と考える。通勤・通学であれば、定時定路線。通院・買い物はオンデマンド等と分けた運行の仕方ができないか。両方をうまくフォローできる運営ができればよい。

会長：運行事業者さんとしては4月以降で何か意見等はないか。

委員：特にはない。

会長：引き続きデータに注視していただき、利用方法等の検証をお願いする。

(2) 乗降ポイントの追加について 承認事項

(事務局より(資料2)乗降ポイントの追加について説明)

会 長：質問、発言等いかがか。特にないということであれば承認案件なので決を取りたい。追加することで承認いただけるということによろしいか。異議なしということで承認された。

(3) ポケットバス停予約システムへの試験移行について

(事務局より(資料3)ポケットバス停予約システムへの試験移行について説明)

会 長：質問、発言いかがか。

委 員：ポケットバス停とは何か所あるのか。

事 務 局：ポケットバス停とは、システムの名称のことである。

委 員：電子頭脳を利用するのか？そのようなツールが無い人はどうするのか。

事 務 局：電話でも予約が可能である。

委 員：電子頭脳を利用するという事は、特別なアプリをダウンロードする必要があるのか？

事 務 局：アプリは不要である。町ホームページ画面から予約することができる。

ポケットバス停予約システム一本で3カ月間試験的に運用していきたいと考えているので、町ホームページ画面を開くとポケットバス停予約のみの表示となる。

委 員：引き続き電話予約もできるということによいのか。

事 務 局：従来どおり電話での予約も可能である。ただし、ポケットバス停予約と同様1時間に4つの時間の選択肢の中からオペレーターが案内することになる。

会 長：あくまで予約の方法ということなので、まとまるかどうかは別の話だが、慣れたらこの予約方法の方が良さそうである。

事 務 局：長期間ではなく、3カ月間試行的に運用をして結果を検証できればと考えている。

委 員：行きの予約は取りやすいが、帰りの予約は時間が読めないのが取りにくい。その辺が改善されれば利用が増えるのではないか。20 km<sup>2</sup>の中で動いているので、運行に要する時間がそれ程掛からないことから皆必要性を感じていない。問題は、境、鴨沢、中村下地区については路線バスが減便され不便地域であることから、その辺の交通手段をオンデマンドバスを利用していければよいと考える。運行費用は1回あたり一人3,000円程度掛かっている。当初は5,000円くらい掛かっていたと記憶している。

会 長：ポケットバス停予約システムについては、システム会社が15分おきの予約が分かりやすいということで始めたと思うが、中井町においては、そんなに距離が長い運行は無く、せいぜい10分程度しか乗らないのに、15分間隔で運行すると待ち時間が長くなるのではないか。到着予測時刻が分かる訳ではないので、15分前に乗車場所に行っていないとではならない。そして10分乗るということになる。もう少し運行距離が長ければ、15分おきでもよいと思うが、中井町に馴染むのかはわからない。システムで検証することは難しいと思うので、待ち時間が長くなってしまった等の声を直

接利用者から聞き、検証した方が良いと思う。実際に試験的に運用してみて待ち時間が長くなってしまいうようであれば、15分間隔を10分間隔にするなどの改善も検討していく必要がある。

委員：出発時間は分っても到着時間は分らないのが問題である。

会長：スマホが普及しているので、バスが今どこにいる等の位置情報が分かると便利である。ポケットバス停予約については、試験運用してみて、データで検証できる部分と利用者の意見を直接聞くという両面で検証を図っていただきたい。

#### 4 その他

事務局：今後のスケジュール及び方向性について説明

会長：ひと通り議事は終了した。委員の皆様からご発言いかがか。

－意見なし－

事務局：今年度の利用状況等に注視しながら、今後の運行システムの方向性を固めていきたいと考えている。次回会議は、来年3月を目途に開催したいと考えている。

以上

○出席委員：

中井町自治会連合会長 廣澤 吉男

境地区バス利用対策委員長 小池 喜一

一般公募委員 廣澤 瀧男

一般公募委員 原 礼子

東洋大学国際学部国際地域学科教授 岡村 敏之

神奈川運輸支局運輸企画専門官輸送担当（代理）高橋 涉

神奈川県県土整備局都市部交通企画課（代理）福島 新平

神奈川県松田警察署交通課総務係（代理）佐々木 琢磨

神奈川中央交通（株）生活交通課長（代理）山下 康宏

（一社）神奈川県タクシー協会相模支部 露木 幸一

神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 小泉 孝行

中井町副町長 加藤 幸一郎

中井町地域防災課長 曾我 裕之

中井町福祉課長 山口 秀俊

中井町まち整備課長 権守 章

中井町教育課長 篠嶋 祐司

中井町老人クラブ連合会長 吉居 命

中井町社会福祉協議会会長 早野 茂

中井の環境を良くする会会長 井関 紀広

○事務局：中井町企画課3名